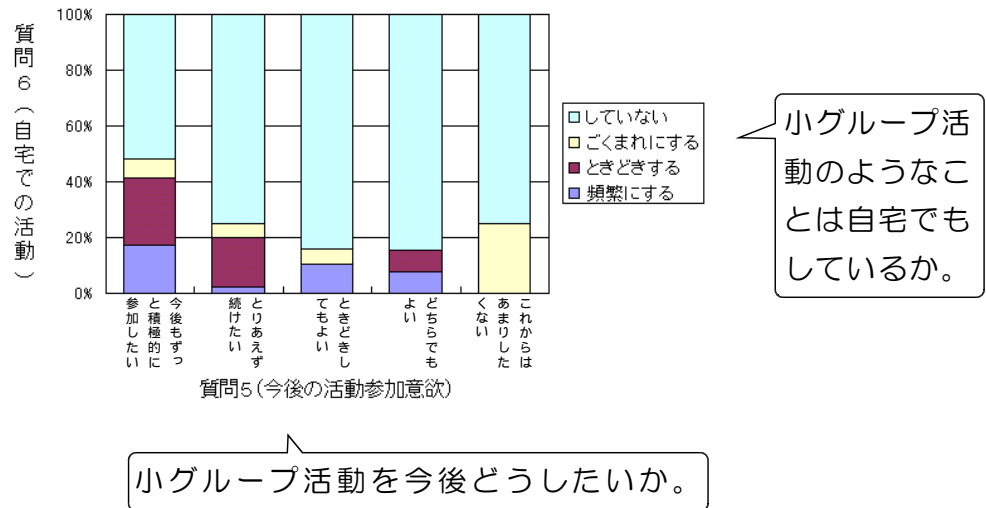


(2) 効果の相関分析

小グループ活動により、利用者のニーズに合った活動内容を提供し、利用者が楽しみややりがいを感じることによって、活動意欲が高まる。

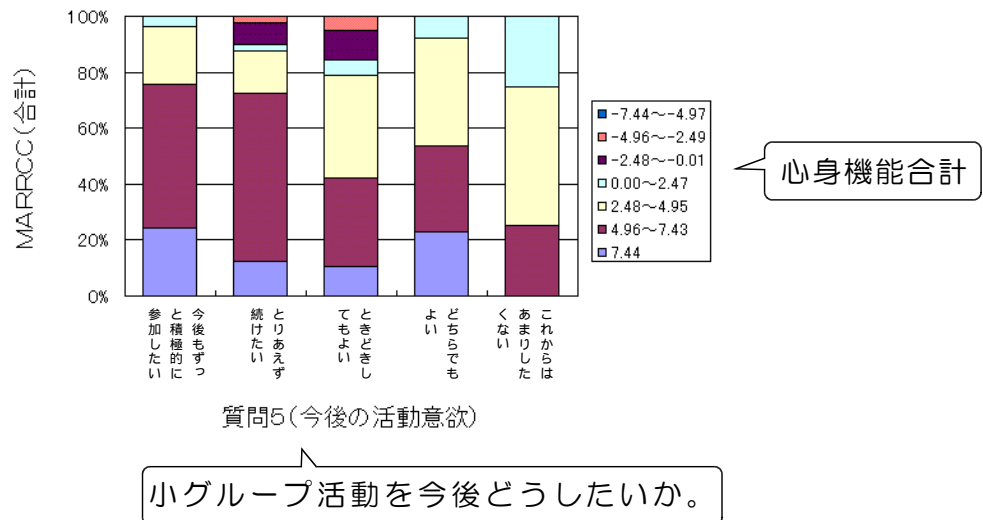
活動意欲が高まれば、自宅での継続性が生まれ、日常生活行動を活性化させる。

今後の活動意欲と自宅での活動の継続性との関係



活動意欲や自宅での継続活動、日常生活行動の活性化等は心身機能を向上させる要素となる。

今後の活動意欲と心身の健康との関係



(3) サービス内容のあり方について

ゲーム機器等の活用

職員の中にはゲーム機器等の導入に半信半疑の者もいた。
利用者の参加動機も、ほかに参加したいものがなかったなど消極的。

【効果】

多くの利用者は、活動内容自体は非常に楽しんでいる。
家族や友人と一緒にしてみたい。
日常生活に何らかの変化があった利用者の割合が他のグループと比べて最も高い(図2)。
これまでゲーム機器等に触れたこともない高齢者でもおおむねゲーム機器が受け入れられた。従来型のサービス内容にとらわれず、高齢者の楽しみや興味も多様で潜在的な可能性がある。
心身機能が向上(図3)。(とくに社会的機能)

【考察】

今後も積極的に参加するかどうかの意欲の面に課題があり(図1)、意欲を高めるため活動内容に創意工夫が必要。
自宅で同様の活動をするなどの継続性について改善の余地があり、家族(とくに孫の世代)を含めた取組が必要。

物品作成等

【効果】

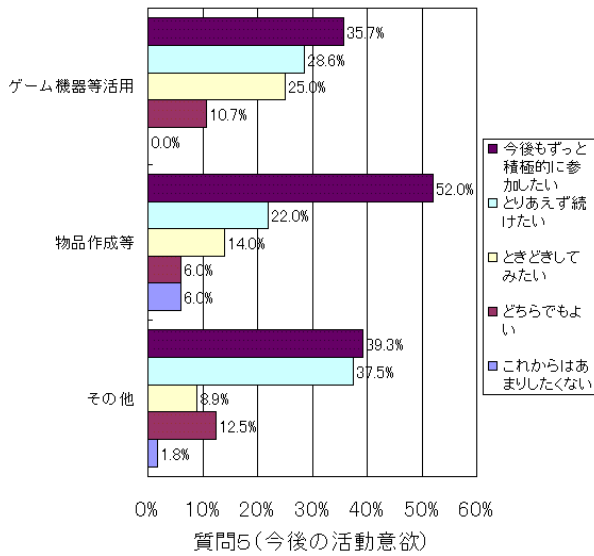
今後の参加への意欲(図1)や自宅等での継続の意欲が高い。
実際、自宅に材料等を持ち帰ってデイサービスセンターで行っている活動を続けたり、自宅で活動の準備をしたりする利用者も見られた。
日常生活に何らかの変化があった利用者の割合がその他のグループと比べて高い(図2)。
心身機能が向上(図3)。(とくに認知・知的機能及び感情・精神)

【考察】

物品作成等の具体的な活動内容の決定や運営に当たっては、職員の個別援助能力によるところが大きい。
個人の世界で行う単純作業で発展性の幅が狭いものよりも、活動内容が段階的で多面性があり、利用者役割分担が可能でコミュニケーションが多様に行われたものの方が、利用者の意欲や自主性の創出の効果が高い。

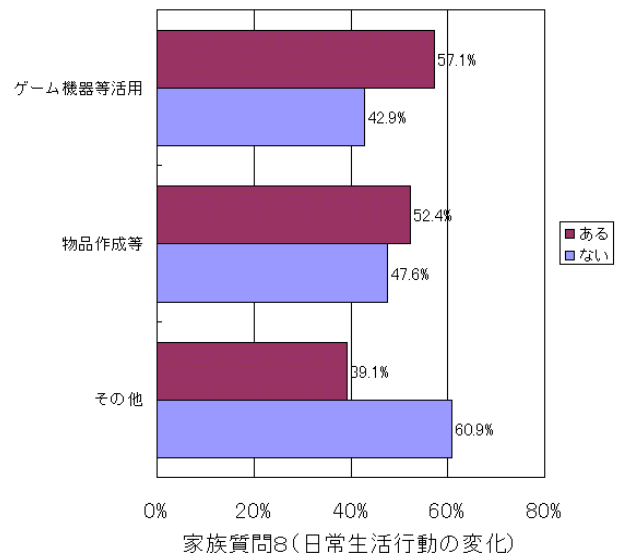
< 図 1 >

小グループ活動を今後どうしたいか。



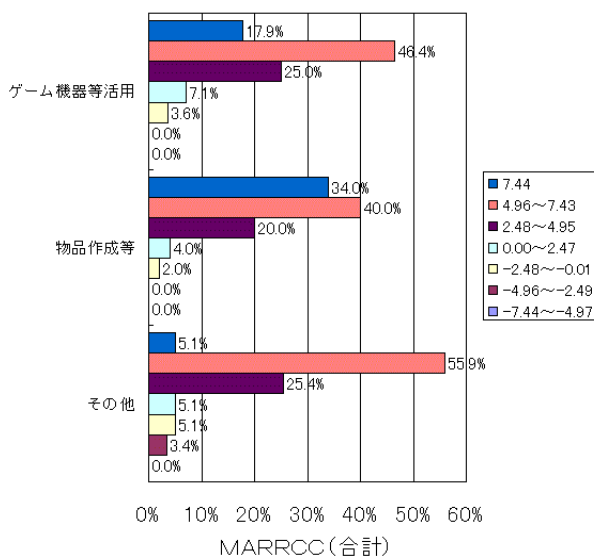
< 図 2 >

6ヶ月前と比べて変化があるか。



< 図 3 >

心身機能合計



(4) 男女別の比較

男性

- ・ 今後の参加意欲
 - ・ 自宅等での継続の意欲
 - ・ 自宅でも同様の活動をする
 - ・ 日常生活で何か楽しいことややりがいのあることをすること
- 具体的活動意欲が向上し、何らかの行動に結びつく。
心身の機能が向上。(とくに感情・精神)

で効果あり。

女性

日常生活で何か楽しいことややりがいのあることをしたいとする意欲や生きがいを感じる程度について効果。

必ずしも活動に限定されない広い充足感が得られた。

心身の機能が向上。(とくに社会的機能、認知・知的機能、感情・精神)

男女差はあるが、いずれも小グループ活動による効果がある。

(5) 要介護度別、認知症の程度別の比較

軽度者

- ・ 今後の参加への意欲
 - ・ 自宅等での継続の意欲
 - ・ 日常生活で何か楽しいことややりがいのあることをする意欲
- 心身機能の向上の成果が顕著。

で効果あり。

各機能別で見ても、身体的機能、社会的機能、認知・知的機能、感情・精神のすべての面で顕著に向上。

高齢者が軽度の段階から早期に取り組む体制を整備する必要。

重度者

- ・ 小グループ活動を楽しい・やりがいがあると感じる
 - ・ 生きがいを感じる
 - ・ 自宅でも同様の活動をする
 - ・ 日常生活で何か楽しいことややりがいのあることをする
- 自主的な意欲創出までには至らなくとも、受動的な効果には結びつく。
心身機能の向上には至っていない。

で効果あり。

小グループ活動により目に見える効果が直ちに現れるというわけではないが、要介護状態等の悪化を防止することを目的に、無理なく長期的に進めていくことが重要。